

我が国の国際戦略：対中戦略、拉致問題（共同研究報告：グローバル化研究）

著者	小野澤 信一
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.20
号	No.1
ページ	21-21
発行年	2010-06
URL	http://id.nii.ac.jp/1477/00002331/

Title	我が国の国際戦略：対中戦略、拉致問題(グローバルゼーション研究)
Author(s)	小野澤, 信一
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2214
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【グローバルゼーション研究】
我が国の国際戦略
―対中戦略、拉致問題―

2010年3月8日、聖学院本部新館2階において、本年度第5回「グローバルゼーション研究会」が25名の参加者の下に開催された。民主党参議院経済産業委員長の木俣佳丈先生を講演者としてお迎えし、上記のテーマについての発表が行われた。概要は以下の通りである。

本研究会では、日本とそれぞれ、韓国、中国そしてアフリカを対象に、日本の国際戦略の歴史を紐解き、今後の政策を考察することをねらいとした。

はじめに、竹島問題と拉致問題が例に挙げられ、日本における、対韓国と対北朝鮮におけるジレンマと、政府のこれまでの対応、そして今後の動向が示された。

次に、沖縄の普天間基地が紹介され、街の中心に位置する世界一危険な軍事基地の移転問題という、今まさに政府が取り組んでいる問題の現状と、それに対する日米合意の難しさが露呈した。

さらに、中東アフガンの紛争と破壊の歴史を確認し、今も残る教育問題、地雷問題、飢餓など多くの問題の現状と課題が示されたと共に、日本が野党外交によって上げたVISA発給に関する問題解決の成果なども挙げられた。

加えて、国会内外において法律ができる過程が、エネルギー政策基本法や議員立法法案などを例に詳しく説明された。

最後に、日中関係の今後の重要性が、対中貿易



第5回グローバルゼーション研究25名の参加があった

や日系企業雇用、観光、環境などの側面から再確認された。

質疑応答では、北朝鮮問題、東アジア共同体に関する今後の予測や、EUと東アジアとの比較、中国の今後の躍進の半面で貧困の格差の問題など、日本の外交に関する非常に幅広い領域での議論が行われた。

（文責：小野澤信一 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）

（2010年3月8日、聖学院本部新館2階）